

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1271202887
法人名	医療法人社団 昌擁会
事業所名	グループホーム蒼生
訪問調査日	平成 21 年 4 月 10 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 30 日
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1271202887
法人名	医療法人社団 昌擁会
事業所名	グループホーム蒼生
所在地 (電話番号)	〒270-2241 千葉県松戸市松戸新田265番地2 (電話) 047-703-5566

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	〒113-0021 東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成21年4月10日	評価確定日	平成21年4月30日

【情報提供票より】(平成21年 3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 11 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	12.5人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.41 歳	最低	66 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柏フォレスト腎・泌尿器クリニック、ほんだ歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 経営母体の柏フォレスト腎・泌尿器クリニックが利用者の約30%に人工透析治療を週3回通院ベースで提供しており、透析治療中の利用者にとって医療・看護・介護の安心な連携体制が築かれています。
2. 職員の都合を優先せず、利用者一人ひとりの思いを大切にし、毎日が楽しく過ごせるように運営理念に沿った介護が行われています。
3. 同一法人グループに属する介護老人保健施設とは、夫々の利用者が他方のサービス機能を必要とする場合に、相互に住み替えが可能となっています。
4. 家族アンケートにも示されている通り、最寄り駅から徒歩3分程度に立地しているため大変訪ねて行き易い利点があります。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	主な改善課題は、1. 家族等への報告、2. 思いや意向の把握、3. プライバシーの確保の徹底4. 食事を楽しむことのできる支援、5. 日常的な外出支援、6. 災害対策です。2, 3, 4項は達成、6項はやや改善、1, 5項は未達成、と言えます。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は、1, 2階の管理者のみで自己評価票の作成に取り組んでいます。今後、管理者は運営者と連携して、職員に自己・外部評価の意義を説明し、全員が自己評価票の作成に何らかの形で関与するように取り組むことが求められます。なお、今回の評価の過程で確認された改善課題も、職務に応じて全員で取り組むことが望まれます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は昨年7月までは3ヶ月ごとに開かれていましたが、その後持たれていません。それまでの主な討議内容は、1. 推進会議の目的とは何か、2. 消防訓練の反省です。メンバー全員に対して会議の意義と目的を再度明確にして、速やかに再開を呼びかけることが求められます。同会議の議題として利用者の様子、活動報告、自己・外部評価への取り組み状況報告、その他地域との連携が必要な事項などを取り上げ、サービスの質の向上につなげる話し合いを行うことが期待されます。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や状態の変化時などにおいて暮らしぶりや健康状態を伝えると共に、意見等を聞くように努めています。然しながら、家族アンケートに示されているように暮らしぶりや健康状態についての定期的報告が昨年秋以降途絶えているとの指摘があります。まず、本人専用の家族通信を月1回家族へ送付することが求められています。更に、運営推進会議を再開し、そこで家族等の意見等が自由に表せるように工夫することが望まれます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	家族アンケートで、以前に比較して散歩等の外出が殆どなくなっているとの意見が出ています。地域とのつきあいは、散歩時に近所の人と気軽に挨拶や会話を交わすことから始まります。天気の良い日は、職員同士が協力し合って散歩に出かけるように努めることが望まれます。更に、運営推進会議の再開を通して、町会や地域との関係作りを一層強固に築いていくことが期待されます。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちの理念」として“1. ひとりひとりの声に耳を傾け、その思いを受け止めます。2. ひとりひとりが、清潔で気持ちよく健康に過ごせるよう、お手伝いします。3. 家族とのつながりを大切にします。”の3つの理念が玄関等の目立つ箇所に掲げられていますが、地域密着型サービスの指針を反映するものになっていません。	○	運営者、管理者、職員皆で話し合っ、地域密着型サービスの指針を具現化した運営理念を速やかに作りあげることが望まれます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例の職員全体会議で日々の介護の実践が従来の3つの理念に揃っているかどうかについて検証されていますが、今後は日々の介護の実践が上述の新しく作られる運営理念に沿っているかどうかについて、検証されることが求められます。	○	職員を始めとする関係者が常時念頭に入れるため、新しく作られる運営理念を目に付きやすい箇所に掲示すると共に、その運営理念の下で定例職員会議等で日々の介護が実践されているかどうかを検証することが望まれます。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設後間もなく町会へ加入し、月1回開催の地域高齢者同士の「ふれあい昼食会」、盆踊り、敬老会等の町会行事に参加しています。また、「ウォークラリーイン松戸」等の地域行事にも出かけています。更に、ホーム内の誕生会には腹話術や手品等のボランティアを受け入れるなどして、地域との交流の輪を広げています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価の取り組みに際して、管理者だけが自己・外部評価の意義を理解し、自己評価票の作成に携わっており、運営者や職員はその意義を理解し自己評価票の作成に関与するまでに至っていません。また、前回評価の改善課題についても、全員での取り組みが不十分と思われます。	○	今後は、運営者と管理者は自己・外部評価の意義を職員に説明し、全員が自己評価票の作成に何らかの形で関与することが望まれます。なお、今回の自己・外部評価でされた改善課題について、全員が夫々の職務に応じて、目標達成期限を定めて具体的に取り組んでいくことが求められます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月ごとに開かれていましたが、昨年7月を最後に以後開催されていません。速やかに、同会議の立て直しに取り組む必要があります。	○	再度、運営推進会議の意義と目的を明らかにし、前メンバー(家族代表、町会長、包括支援センター、民生委員、運営者等)に参加を呼びかけて、速やかに運営推進会議を立て直し、再開することが求められます。なお、開催は原則2ヶ月に1回実施されることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護受給者の医療保険による受診のため、福祉事務所と連絡を取っています。また、介護保険更新申請代行のため介護支援課と接触しています。その他、必要に応じて市担当課に相談に乗ってもらっています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時や、利用者の状態に変化があった時あるいは利用者の要望への対応方法についてホームの判断で決め兼ねる場合はその都度、暮らしぶり等を家族へ伝え対応を話し合っています。然し、以前は会報“蒼生だより”が請求書とともに月1回送付されていましたが、昨春秋以降途絶えています。	○	家族アンケートにも要望がありますが、本人専用の家族通信(本人の様子やスナップ写真等)の発行を月1回送付すること、また貯まった小遣い金について、できるだけホーム側の負担にならない形の簡単な精算方法を工夫することが望まれます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に声かけ、意見等を聞くように努めています。外部の苦情相談窓口として介護支援課や国保連が契約書に明記されていますが、そこには苦情等は届いていません。	○	外部者としての運営推進会議のメンバーに必ず家族代表を加え、家族の意見等が自由に述べられる雰囲気作りをすることが期待されます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去1年間、常勤職員がかなり離職しており、離職率が高いように思われます。新任職員に代わる場合は、利用者とお互いになれるまで現任職員が2週間ほど新任者に付き添い、利用者の精神的ダメージを少なくするように努めています。	○	離職を最小限に抑えるため、まず管理者は職員のレベルに応じて、定期的面談を行って職員の不安や不満を聞きだし対処することが望まれます。それ以外にも適切な人事的対策がないかを検討することが期待されます。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を対象とした、同一法人運営の介護老人保健施設(老健)との合同研修会が毎月1回行われていますが、外部研修の受講は少ないように思われます。新人職員には、現任者が1ヶ月ほどを目標に新任者にOJTを行うことを考えていますが、最近では若い職員が入職していません。	○	適当な外部研修機関等の研修計画を参考にしながら、職員のレベルに応じた年間の研修計画を早急に立て、職員の介護スキルの向上のために外部研修受講の機会を提供することが望まれます。外部研修受講者には、他の職員に対し研修内容を報告してもらい、全員への周知を図ることが望ましいことは言うまでもありません。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会が活動を長らく休止していたため、同業者との交流の機会はありませんでした。しかし昨春秋、同連絡会が活動を再開したとの未確認情報があります。	○	再開されたグループホーム連絡会に打診の上、加入手続きを行い、会員としてレベルに応じて職員が懇親会や事例検討会等に積極的に参加し、相互に学びあって職員の介護サービスの質の向上につなげていくことが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、家族、続いて本人と家族のホーム見学から始め、3泊～4泊の体験入居をしてもらう等、徐々にホームでの生活に馴染んでもらいながら、本格的な利用に移っていけるような支援をしています		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段から利用者と一緒に過ごす中で学びや、ともに支えあう関係作りを大切にし、常に敬う気持ちで接しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で、言葉や表情・動作等から汲み取り把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前のデイサービスや老健等からの情報を基に本人、家族の意見を反映したものにする為に、できるだけ多く話を聞くようにしています。一人ひとりその時点に沿った個別介護計画の作成をしています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が本人の状態や情報を確認し、状態が変化した際は計画を見直し現状に即したものになるよう計画期間が終了する前であっても検討見直しをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	連携クリニックへの入院や老健への入所など状況に応じて対応しています。家族の付き添いが困難な場合は、職員が入居前のかかりつけ医や入居後の連携クリニックへ通院同行します。また、21世紀の森公園等の遠出の外出支援や、必要に応じて市役所への手続き代行等のサービスを行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医や連携クリニックへの通院には家族が同行しますが、家族の状況に応じて職員が通院同行をすることもあります。透析中の利用者の連携クリニックへの通院送迎は同クリニックが行います。協力歯科医が毎週土曜日に往診します。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の運営方針として重度化や終末期に医療処置を必要とする人をサービス対象としていませんが、家族の希望がありかかりつけ医の協力が得られる場合には、例外的にホームで看取りをしています。今後は出来るだけ早い時期から本人・家族と日常の健康管理や急変時に対応できるよう話し合いを重ねていく方向で考えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに対する職員の意識向上を職員会議等で図っています。調査の折、日常の関わりの中で、誘導の声掛けや本人を傷つけるような言葉かけの場面は見受けられませんでした。	○	個別のケアファイルや個別の契約関係ファイルは必要に応じて施錠のうえ保管することが望まれます。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事の時間など基本的な1日の流れは持っていますが、透析治療に出かける利用者は早めの昼食を済ませたり、入浴日・時間を変えるなど、一人ひとりの状態や希望に配慮し、柔軟に対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月曜から土曜日の昼・夕食は、同一法人運営の介護老人保健施設から届けられ、盛り付けや配膳は職員と利用者が一緒に行っています。毎日の朝食と日曜日の食事は希望を聞いて献立を作り、一緒に食事作りを楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者5～6人は透析に週3回通う為、曜日や時間帯を変えるなど柔軟に対応しています。また菖蒲湯や入浴剤で入浴を楽しんでもらうよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭掃除、食器拭き、プランターでの野菜作りなど、昔体で覚え込んだ記憶を基に一人ひとりの楽しみごとや役割を見つけたり、お願いできそうな仕事を頼んだりするなどして、感謝の言葉を伝えています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩や希望者には車でスーパー迄買い物に出かけています。ただ近くに散歩に出かける程度で利用者の馴染みの店や場所へは出かけるまでに至っていません。	○	家族アンケートから以前に比べて散歩が少なくなっていると感じているなど、外出支援不足が問題点としてあがっています。日々生き生きと過ごすためには、一人ひとりのその日の希望に応じて戸外で気持ちよく過ごし、気分転換やストレスの発散・五感刺激を得ることが欠かせません。更なる外出支援の取り組みが望まれます。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は1階の内玄関ドアは施錠していませんが、表玄関ドアは比較的高い位置の手動ボタンで自動開閉するようになっています。徘徊傾向の利用者が多い2階はチャイムにより外出しそうな様子を察知したときは、さり気ない声掛けをし、一緒に散歩に出かけるなど、安全で自由な暮らしを支えています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年1回消防署立会いで昼間想定消防訓練が実施されています。運営推進会議で、消防訓練の反省会が行われていますが、地域との合同訓練を実施する段階には至っていません。防火管理者は選任されていますが、ホーム独自の避難マニュアルはまだ作成されていません。	○	消防訓練と自主避難訓練(夜間想定を含む)を年各1回実施すること、また実施に際して運営推進会議で防災訓練を議題に上げて、初動態勢、利用者の状態(車イス使用等)の避難誘導方法等の問題点や、地元の協力のあり方などについて協議、検討することが望まれます。同会議で消防署に防災講習をお願いすることも一案です。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日チェック表に記録、栄養補助食品を活用するなど、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしています。また管理栄養士による定期的なアドバイスをもらい、栄養摂取量も把握されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関内は最初のガラスドアを通して、また廊下、居間、台所もガラス窓やドアに面し、適度に明るく清潔に保たれています。浴室も手頃な明り取り窓が付いており、閉塞感を感じさせません。居間には大きなソファ、テレビ、花瓶等が置かれ、壁にはカレンダー等が掛けられ、枝垂桜の写真、切り絵等も飾られ、生活感や季節感が出るように工夫されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人用のダンスが備え付けとなっており、利用者の状態に合わせたベッドや、馴染みの籐製整理ダンス、飾り棚、お気に入りのぬいぐるみ等も持ち込まれています。壁には習字、鯉のぼり貼り絵などの作品、家族の写真等が飾られており、安らぎの中で暮らせるように配慮されています。		